

船舶事故調査報告書

平成26年5月8日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	火災
発生日時	平成25年9月9日 22時10分ごろ
発生場所	北海道苫小牧市苫小牧港（西港）南方沖 苫小牧市所在の開発局苫小牧港東島防波堤西灯台から真方位192°11海里（M）付近 （概位 北緯42°26.0′ 東経141°34.0′）
事故調査の経過	平成25年9月13日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	遊漁船 ^{にっしょう} 日昇丸、6.6トン HK2-21729（漁船登録番号）、個人所有 11.42m（Lr）×3.20m×1.04m、FRP ディーゼル機関、323.62kW、平成6年6月30日 第200-25953号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 62歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成2年11月16日 免許証交付日 平成22年5月24日 （平成27年11月15日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	全損（事故発生場所付近で沈没）
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、釣り客12人を乗せ、僚船の操業場所から約1M南方の開発局苫小牧港東島防波堤西灯台から真方位192°11M付近において、船首を北に向けてパラシュート型シーアンカーを投じ、主機駆動の発電機により、集魚灯を点灯するため、主機を中立運転として遊漁を行った。 船長は、平成25年9月9日22時10分ごろ、ニスが焼けたような匂いがしたため、発電機が故障したものと思い、機関室に降りて発電機を触診したものの、熱を持った様子がなかったので、本船の電気機器の整備を依頼したことがある業者に携帯電話で相談したところ、発電機を停止した方が良いとのアドバイスを得たので、主機を停止して冷却水等の点検を始めた。

	<p>機関室で点検中の船長は、主機の後方にある集魚灯用安定器を置いている部屋（以下「トランス室」という。）に通じるダクトから黒煙が出てきたので、トランス室から出火していることに気づき、船室等に置いていた計2本の粉末式消火器及び機関室に置いていた投てき型の消火器を持ってトランス室に向かった。</p> <p>船長は、粉末式消火器2本を集魚灯用安定器に向けて使用したが、黒煙は収まらず、そのうちに炎が上がってきたので、投てき型の消火器を炎に向かって投げたものの、炎に当たらなかったため、効果はなかった。</p> <p>船長は、球状船首部が空洞であり、沈みにくい構造であることを知っていたので、船首部に釣り客全員を移動させた後、僚船船長に携帯電話で救助を求め、次いで118番に事故を通報した。</p> <p>僚船は30分足らずで到着して本船に接舷し、船長は、釣り客全員を移乗させた後、自身も乗り移った。</p> <p>本船は、到着した海上保安部の巡視船により、消火が行われたが、船体がほぼ焼失し、9月10日00時40分ごろ事故発生場所付近で沈没した。</p>
<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 北、風力3～4、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、ほぼ船体中央にある操舵室の下が機関室であり、操舵室前に船室が、船尾甲板下にトランス室がそれぞれ設けられていた。</p> <p>トランス室は、壁がFRP製の約1m四方の立体形であり、2kW2灯用の集魚灯用安定器6台を3台ずつの2段に積んで設置し、ビス等で移動防止の措置を採っていた。</p> <p>本船では、機関室天井部に空気取入口及び常時運転している200Vの給気ファンを設置し、機関室及びトランス室へダクトで分岐させて給気していたが、排気装置はなかった。</p> <p>船長は、トランス室について、1週間に1回程度の頻度でターミナルの緩み、配線（VCTケーブルを使用）の異常等を確認し、機関室については、出港前点検に加え、釣り場に到着後は2～3時間おきに見回りをしていたが、異常は発見しなかった。</p> <p>集魚灯用安定器は、平成24年に1台を新替えし、3～4年前に廃業するいか釣り漁船から未使用品を数台購入して交換していたが、10年以上継続使用していたものが数台あった。</p> <p>船長は、電気系統の絶縁測定を行っていなかった。</p> <p>機関室及びトランス室には、監視カメラ、火災探知器及び自動消火器はなかった。</p> <p>船長は、不測の事態に備え、常に僚船と携帯電話で情報を交換しながら、僚船の近くで遊漁を行っていた。</p> <p>船長及び釣り客は、全員が救命胴衣を着用していた。</p>

<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり あり なし</p> <p>本船は、苫小牧港（西港）南方沖で遊漁中、トランス室から出火したことから、付近へ延焼し、火災になったものと考えられる。</p> <p>本船は、トランス室の集魚灯用安定器が老朽化し、又は集魚灯用安定器に至る配線に漏電を生じるなどして出火した可能性があると考えられるが、本船が全焼して沈没したことから、出火に至る状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、夜間、本船が、苫小牧港（西港）南方沖で遊漁中、トランス室から出火したため、発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集魚灯用安定器は、湿気の少ない、換気装置が装備された場所に設置し、定期的な点検及び適時に交換を行うことが望まれる。